

➤ 1時間でわかる脳卒中アプローチ 荷重に必要な 足部の働き

～母趾に荷重できない理由と原因～

1. 足部の構造
 2. アーチの必要性実験
 3. 荷重のための足部アプローチ
 4. 臨床場面での仮説検証作業
-



山本流アプローチ

アプローチとは、対象や目標に近づく（迫る）こと

目標を達成するためには（アプローチには）

原因

のアプローチが重要で、そのためには

原因評価

可塑性変化

が必要

目標達成の条件は

環境

行動

能力

の3つの順で改善が必要

行動を変えるためには

認知

を変えるための

知覚

が重要である

脳卒中患者様の原因とは？

アプローチするのは？

脳卒中は、脳の血管が詰まったり破れたりして、
脳の機能が損なわれる病気の総称です。

状態評価

ADL評価

基本動作→筋緊張

セルフケア→運動麻痺

コミュニケーション→失語

病棟生活→FIM

ADLが改善

症状の有無評価

筋緊張：アシュワース

運動麻痺：BRS-t

失語：SLTA

前頭葉：FIM

症状が改善

原因評価

被殻出血：抑制障害・筋緊張障害



可塑性

何が変わるの？

評価：基底核・内包・放線冠

目標に近づくために？

どんなアプローチが必要？

目標

<条件>

環境

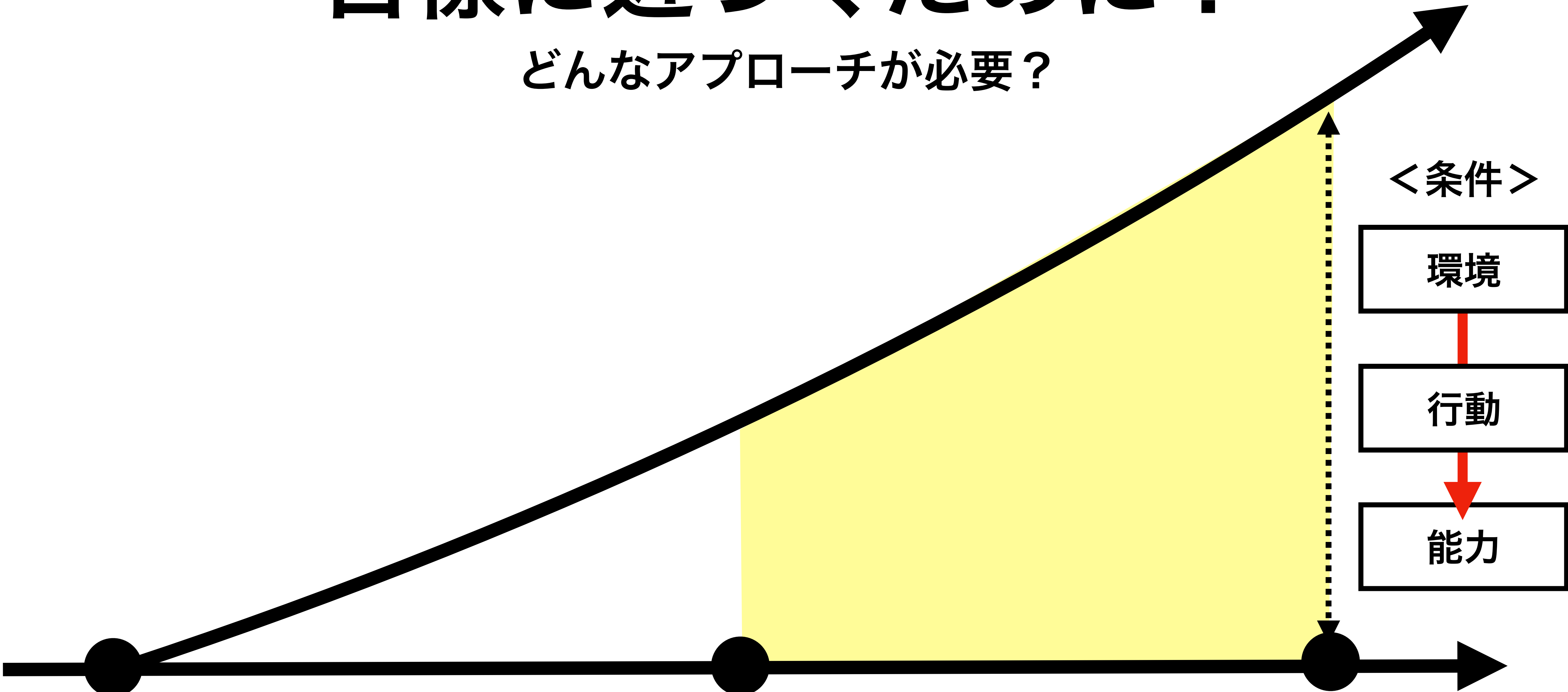
行動

能力

過去

現在

未来



どうすれば行動・能力を変えられるか？

行動を変えるためにどこにアプローチするべき？

なんのために
意識させるのか？

なぜ、考え方を
変える必要がある？

なぜ行動するのか？



山本流アプローチ

アプローチとは、対象や目標に近づく（迫る）こと

原因に対して、可塑性変化を促すために

- ①原因評価(統合と解釈)が必須
- ②行動を変えるための、感覚知覚が重要
- ③感覚が知覚できると認識が変わり、行動変容が起こる
- ④行動変容が起こらないものは、アプローチではない

➤ 1時間でわかる脳卒中アプローチ

最短の移動手段 歩行とは

-
1. ADL獲得に必要な歩行とは
 2. 歩行周期と役割
 3. 歩行の評価ポイント
 4. 臨床場面での仮説検証作業
-

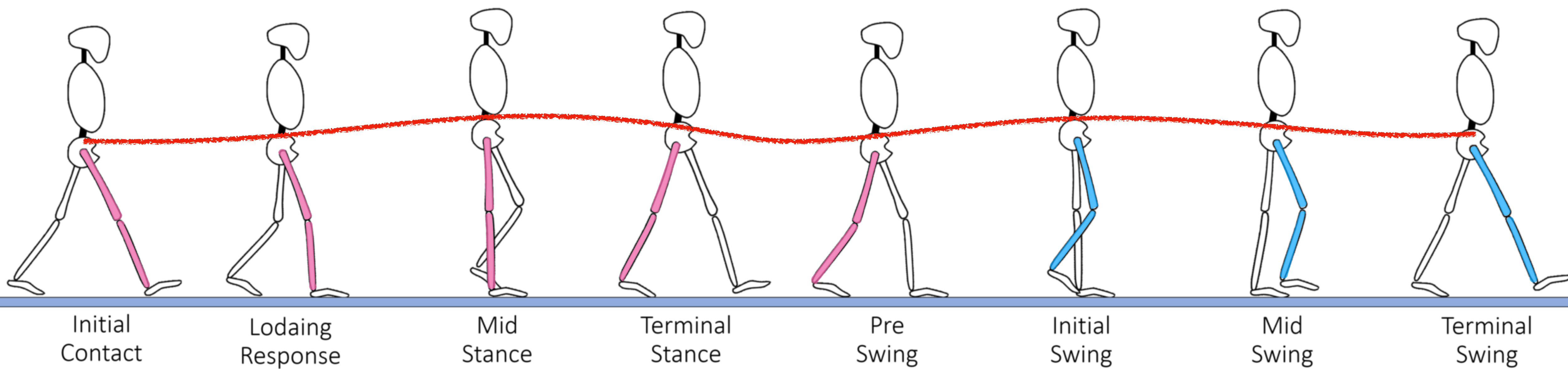
日時：2023年2月17日（金）20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一郎

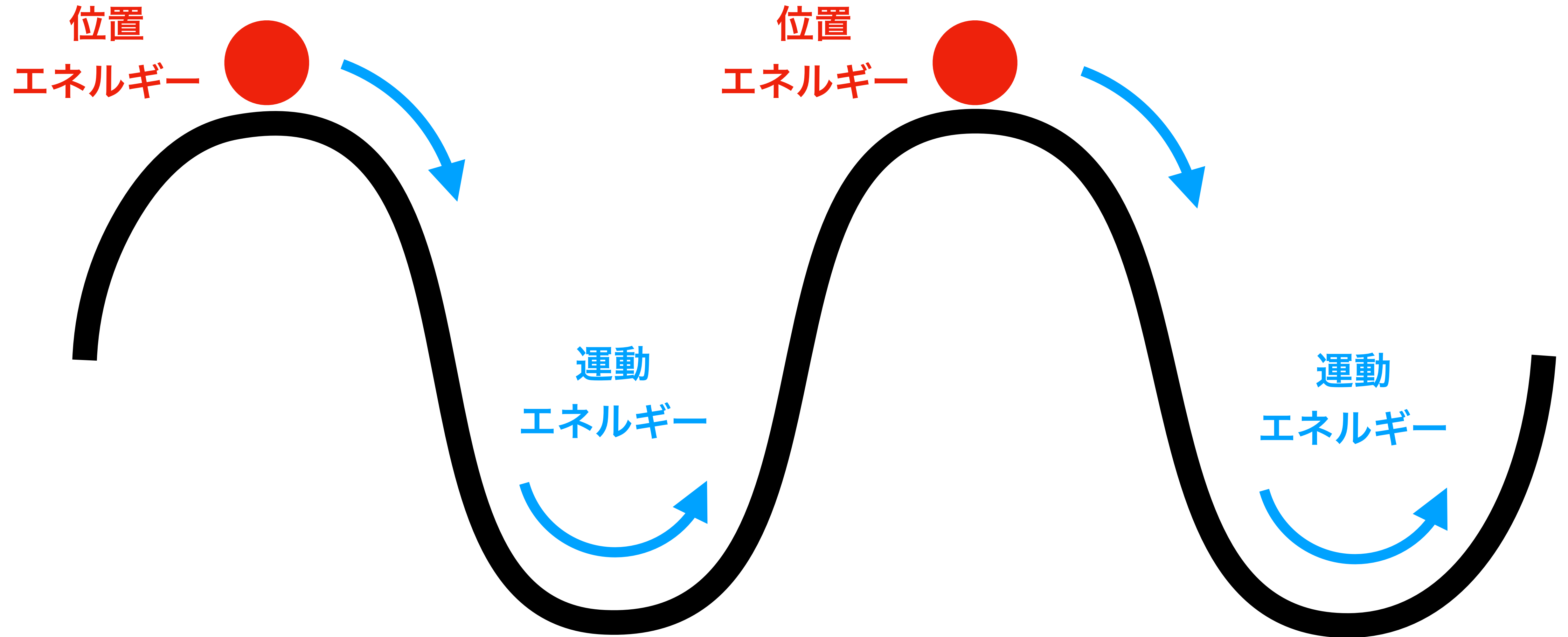


歩行ってどんな評価しますか？

人はどうやって移動するの？



人はどうやって移動するの？

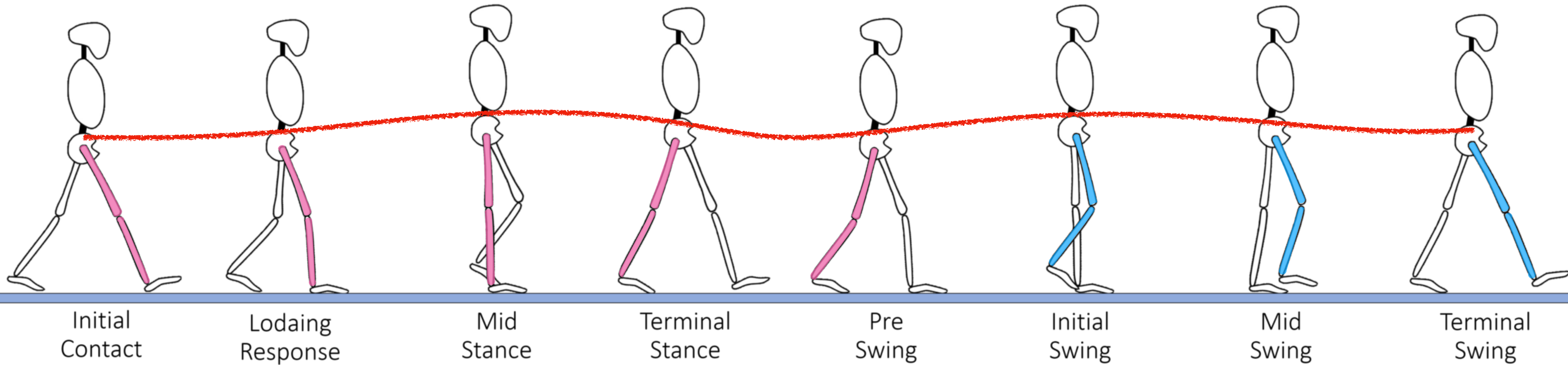


人はどうやって移動するの？

歩行

立脚相

遊脚相



荷重の受け継ぎ

単脚支持

前方
推進力

下肢の前方
振り出し

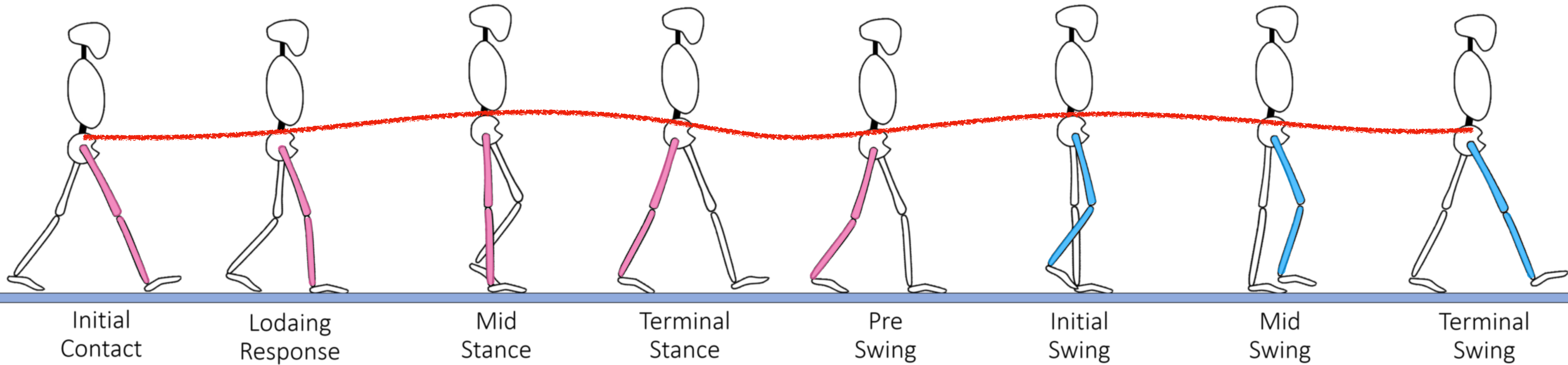
接地準備

人はどうやって移動するの？

歩行

立脚相

遊脚相



衝撃
吸収

重心
持ち上げ

重心
保持

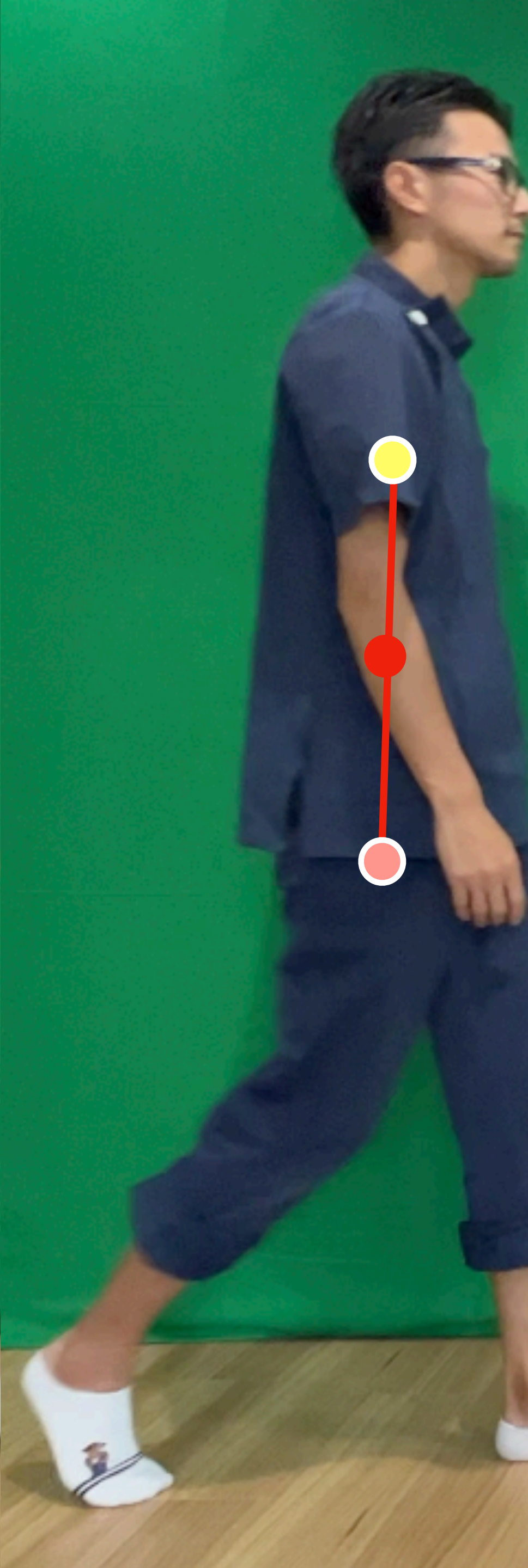
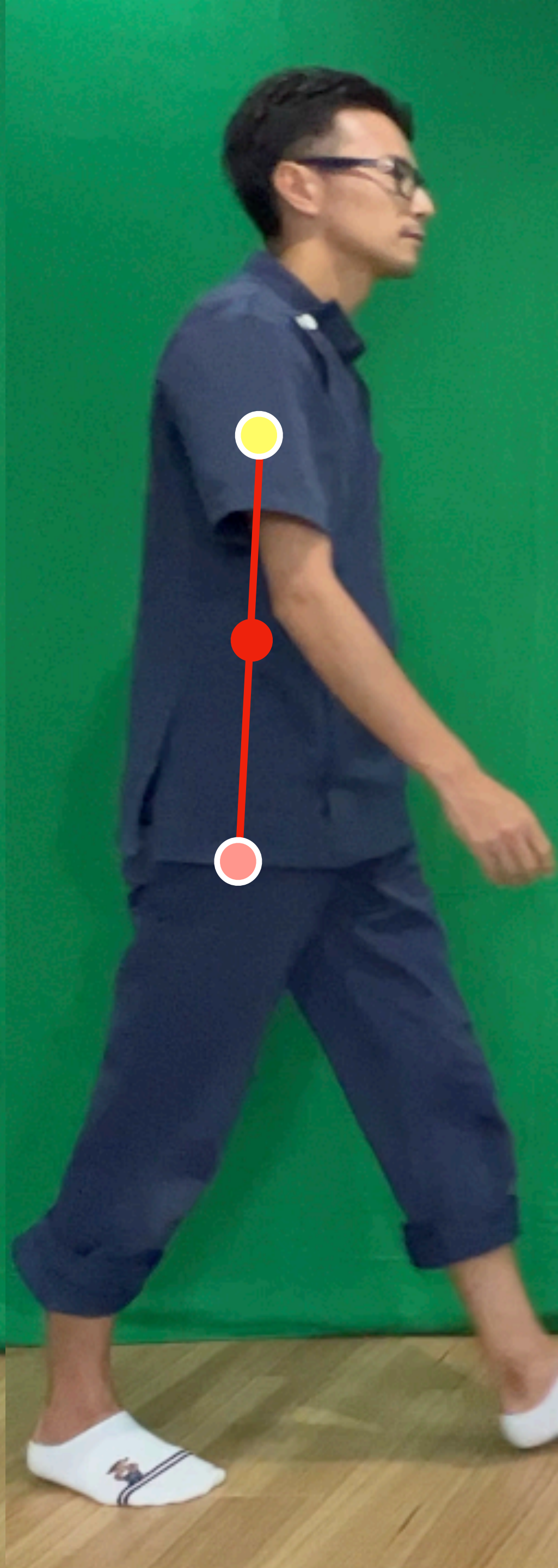
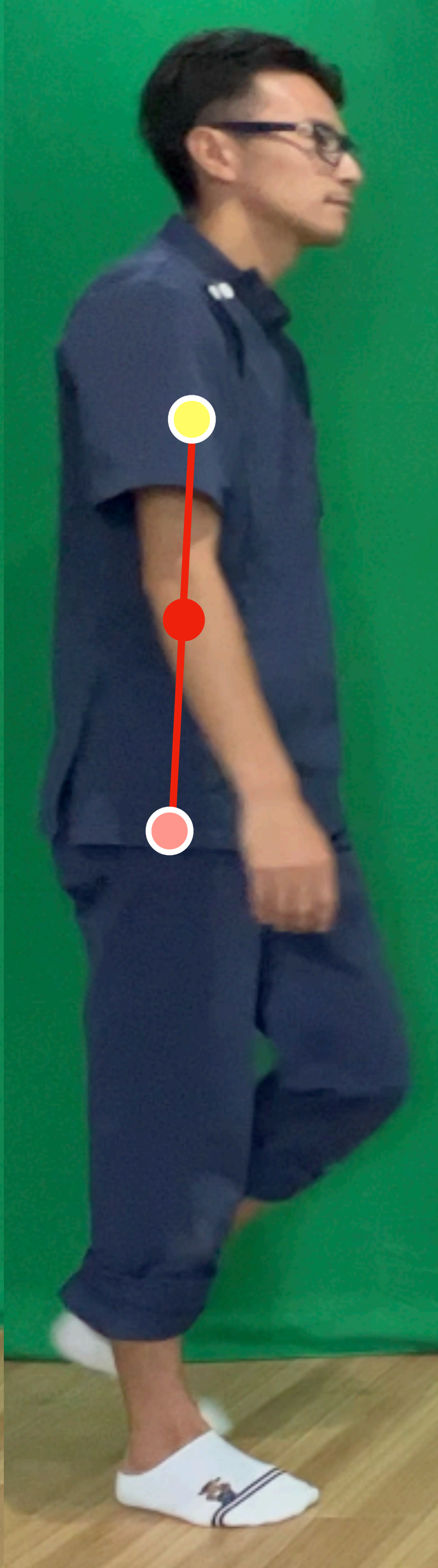
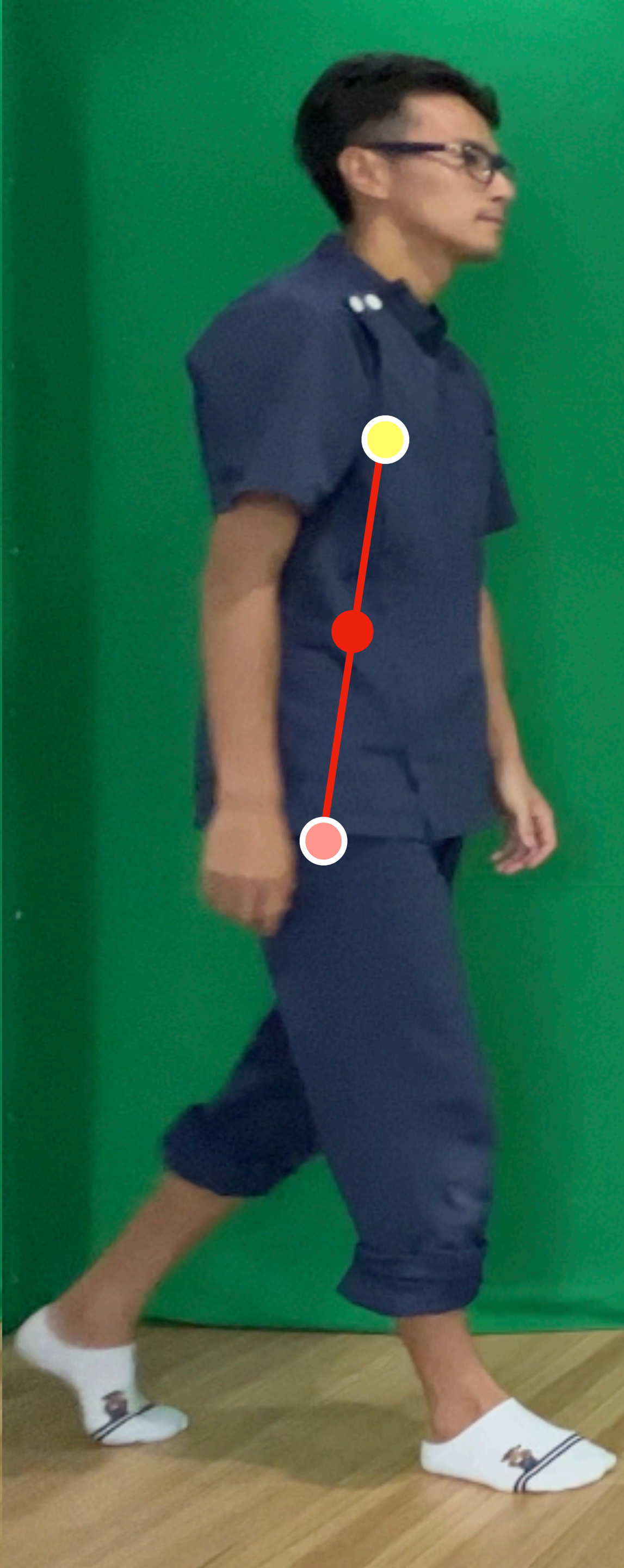
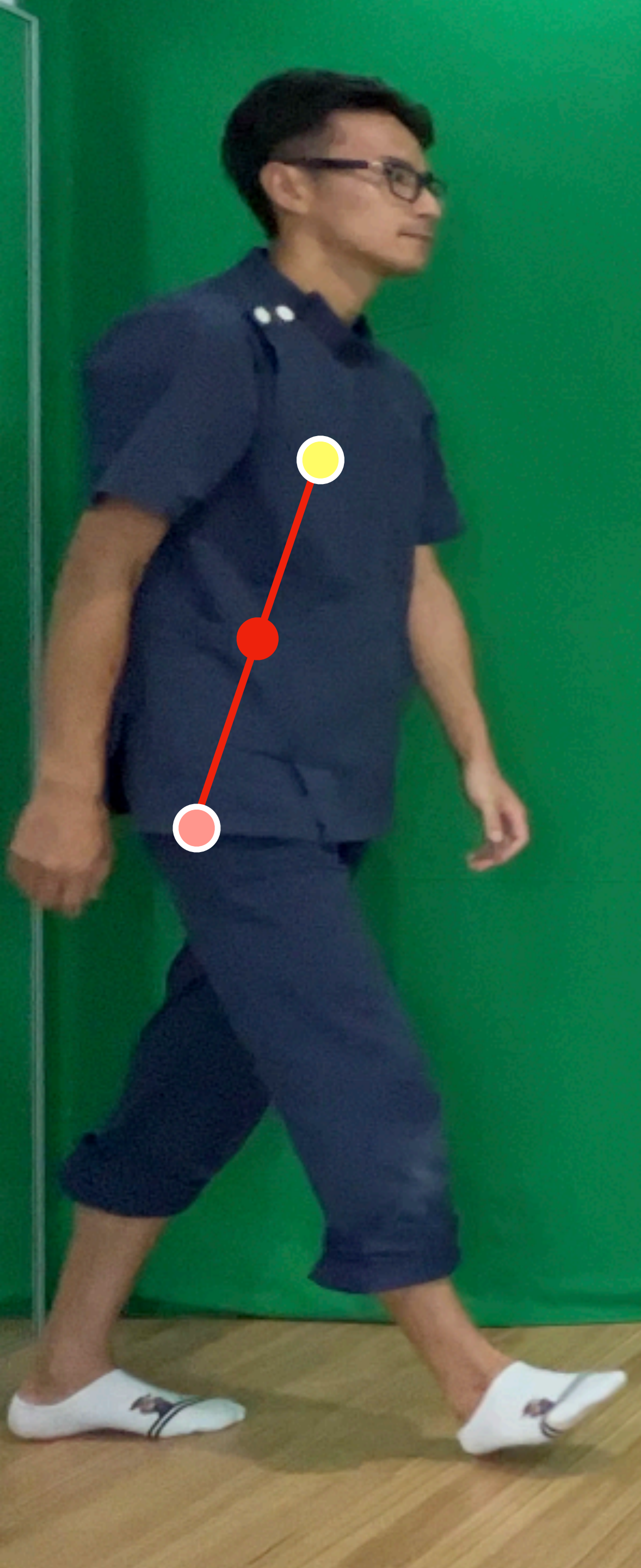
減速

前方
推進力

下肢の
持ち上げ

下肢の
振り出し

接地準備

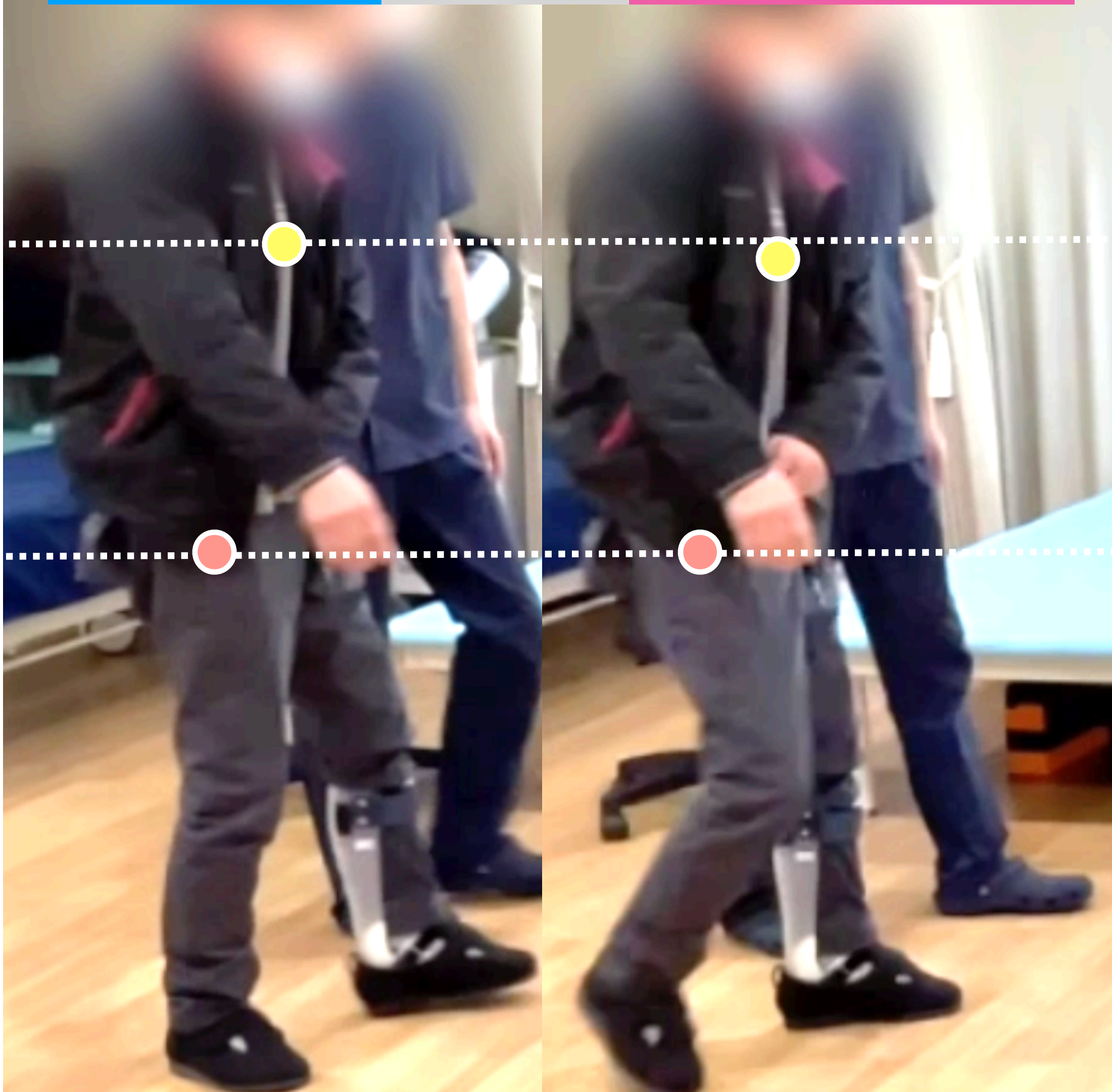


接地準備

衝撃
吸収

重心
持ち上げ

評価



①上半身重心の評価

②下半身重心の評価

③上・下半身重心の位置評価

随意運動の問題

バランス

筋緊張の問題

接地準備

衝撃
吸収

重心
持ち上げ



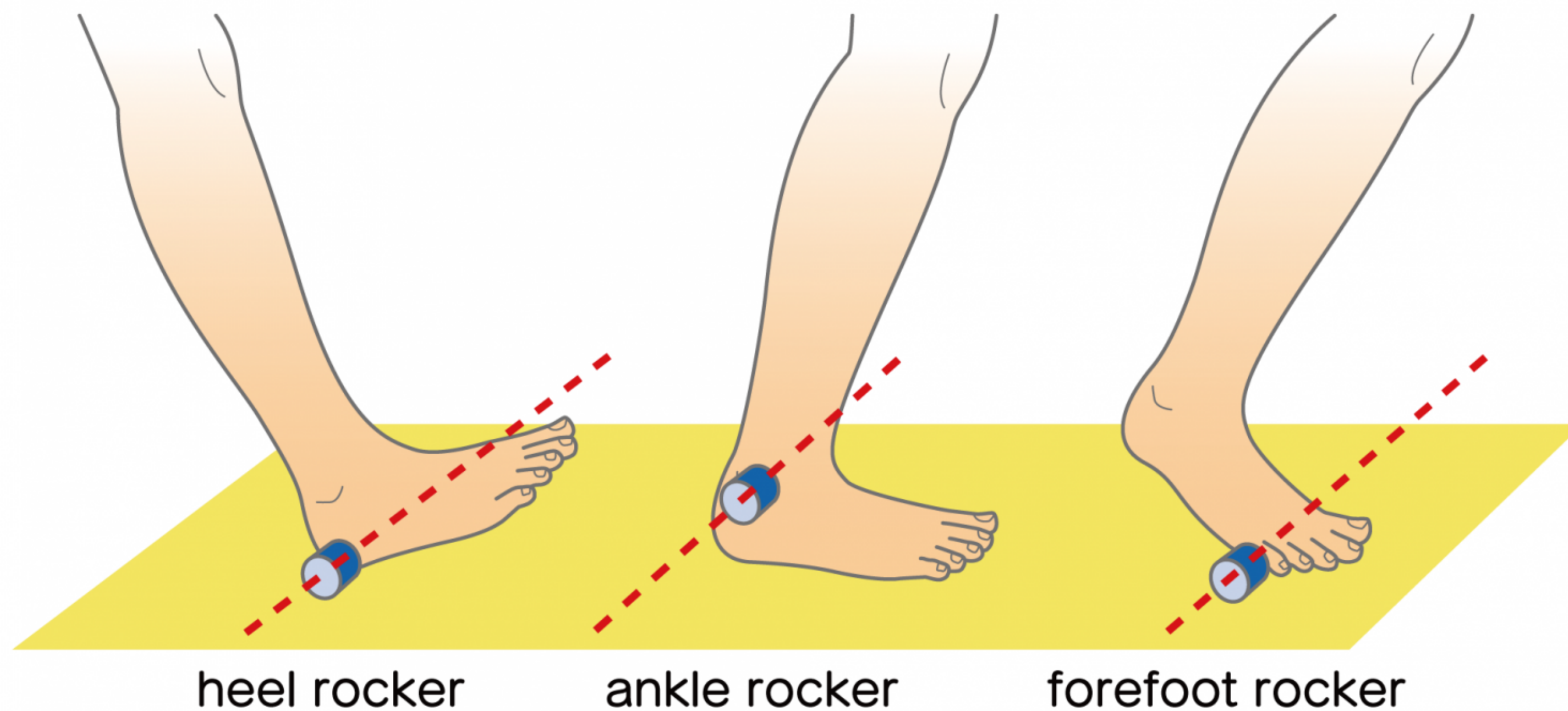
随意運動の問題

バランス

筋緊張の問題

重力をコントロールする方法

3つの rocker機能

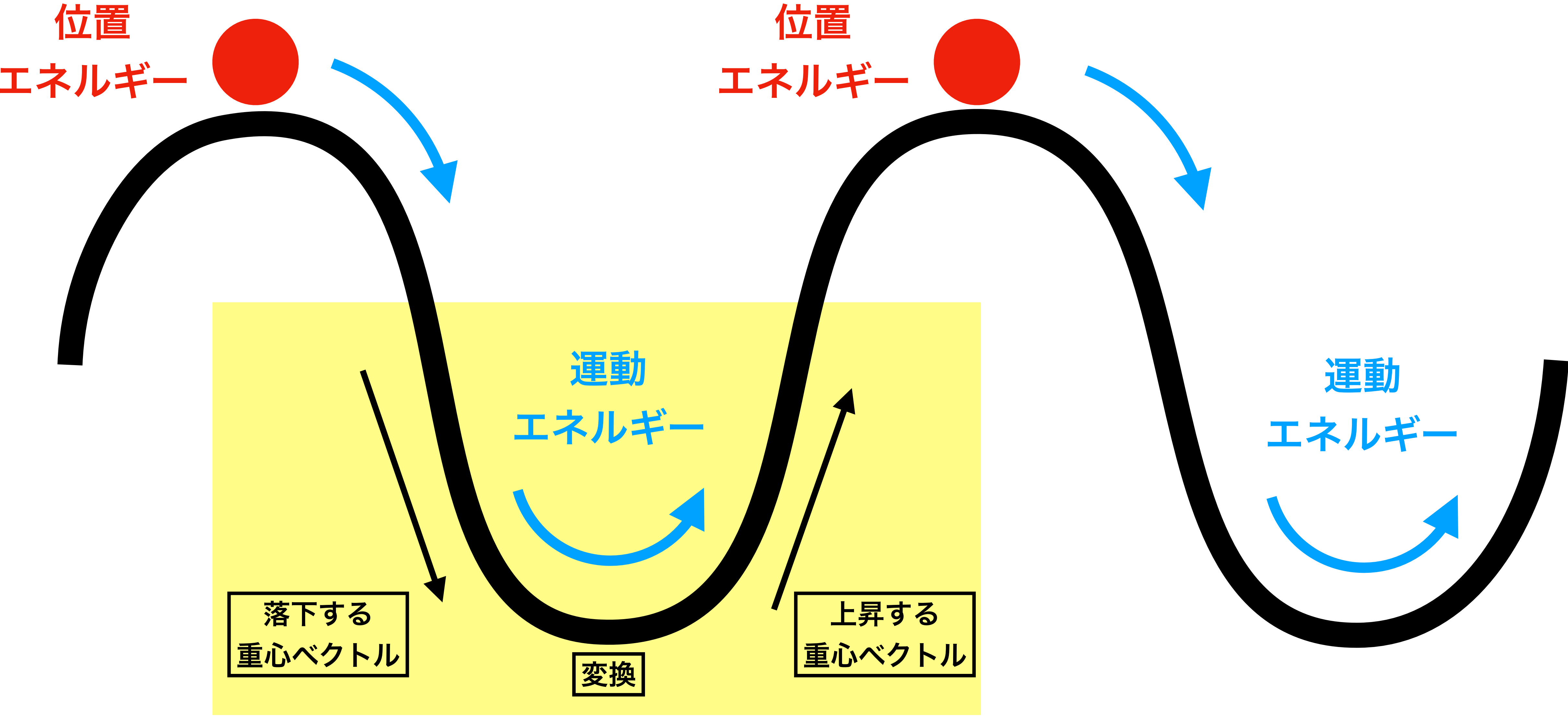


ロッカーフアンクションとは？

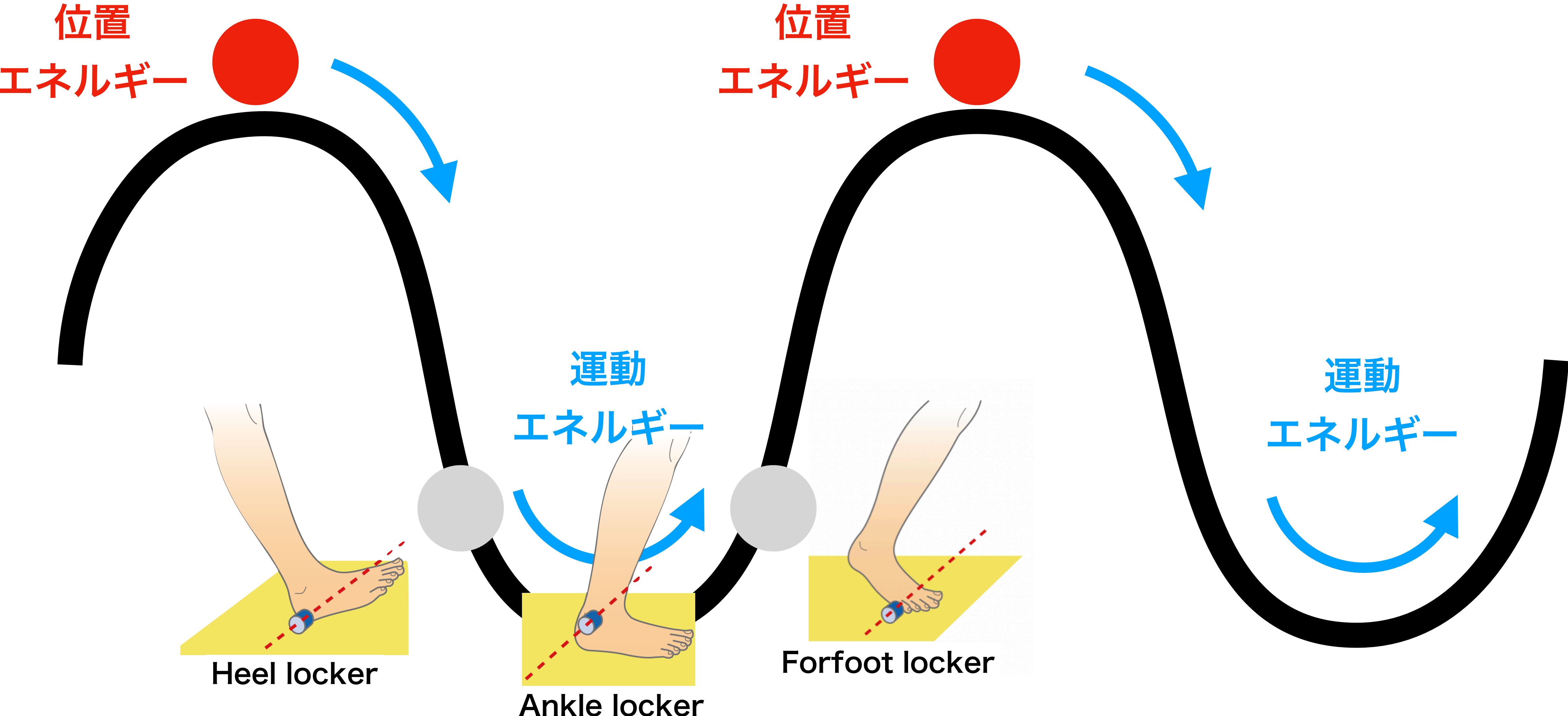
歩行する際は、下に向かう重心のベクトルを前方へ変換する仕組み。
そこで必要となるのが、“ロッカー機能”と呼ばれるメカニズムです。



ロッカーフアংশクシヨンはどこ？



ロッカーフアংশクシヨンはどこ？



下肢の
振り出し

接地準備

衝撃
吸収

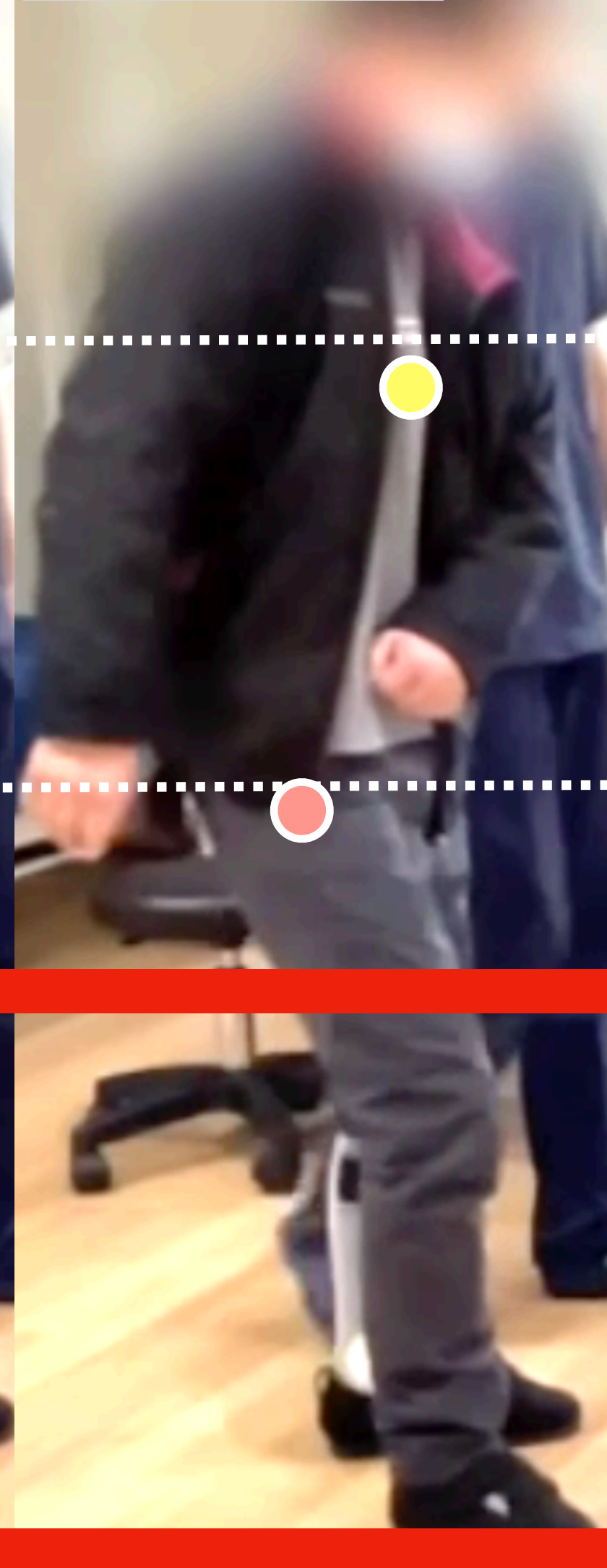
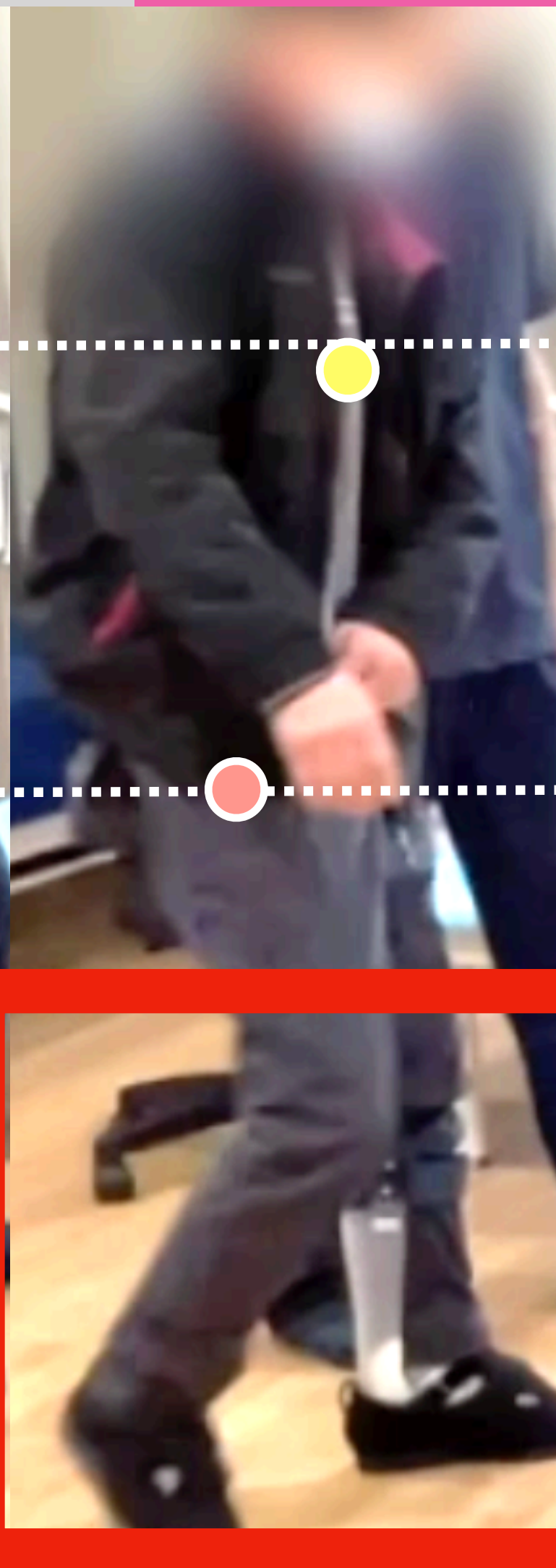
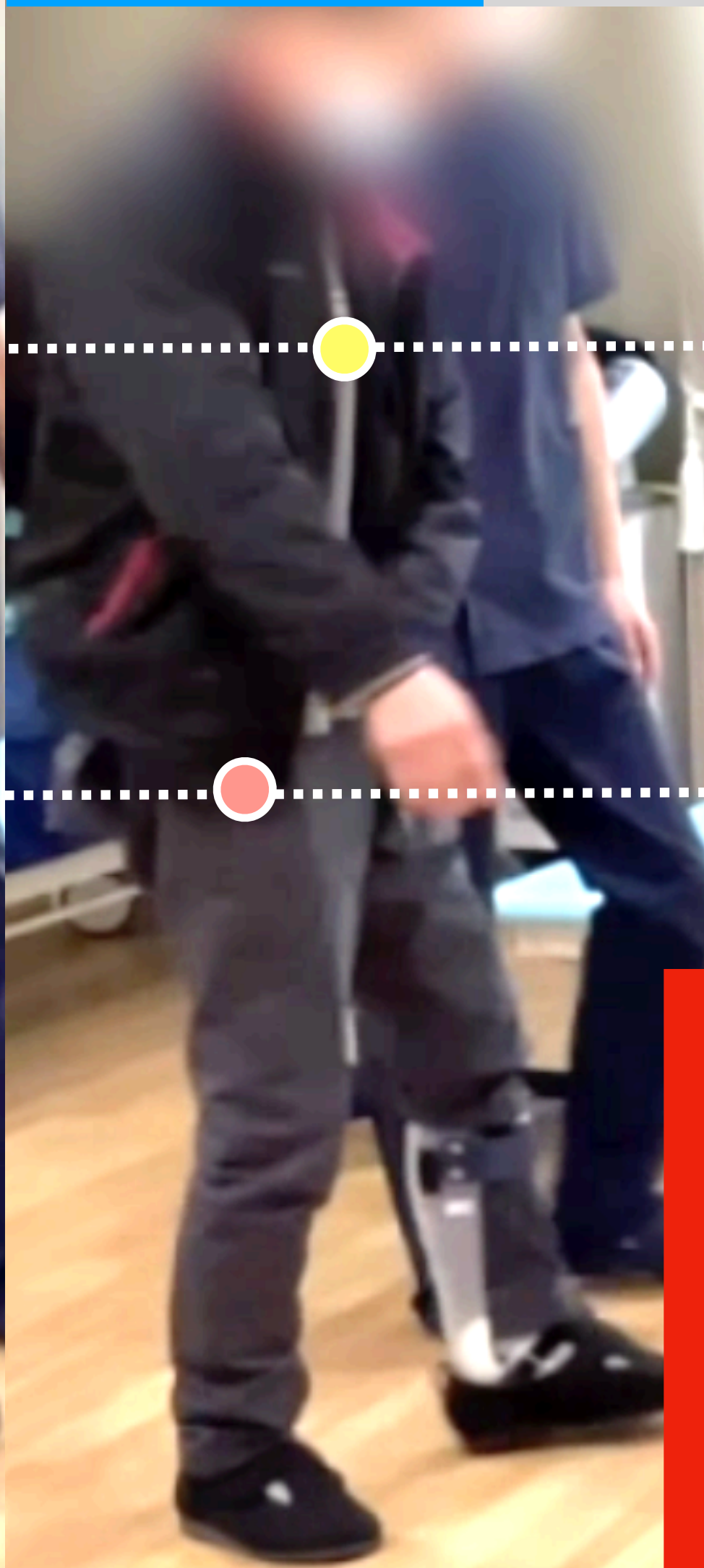
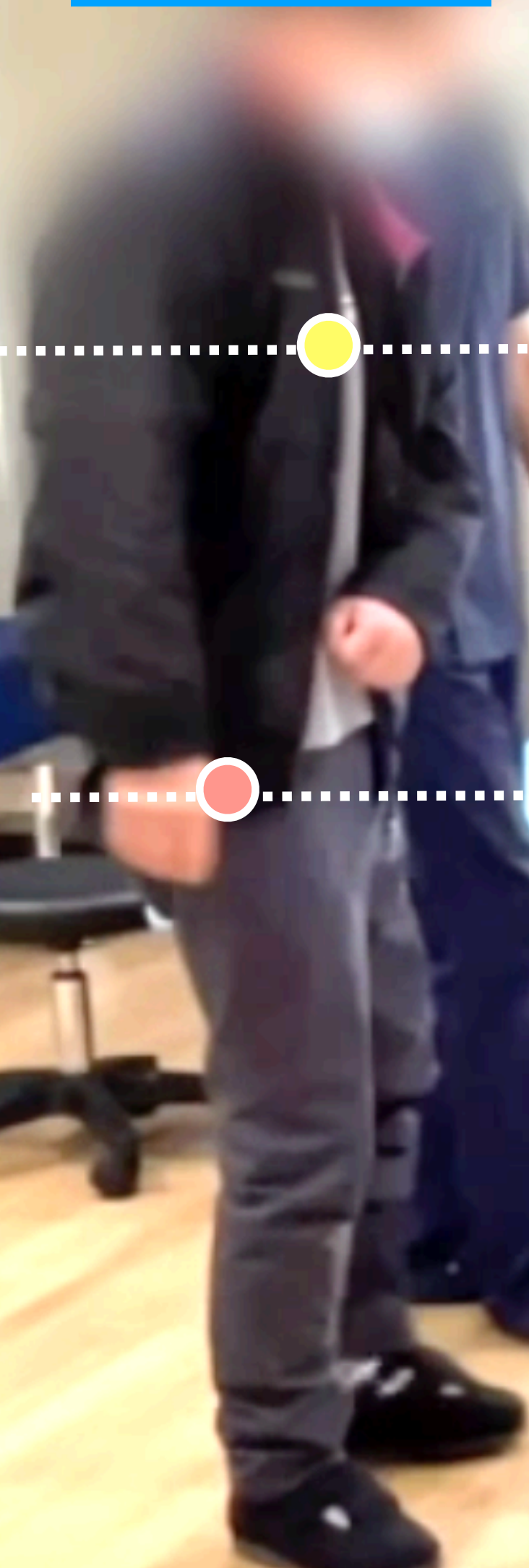
重心
持ち上げ

重心
保持

減速

前方
推進力

下肢の
持ち上げ



随意運動の問題

バランス

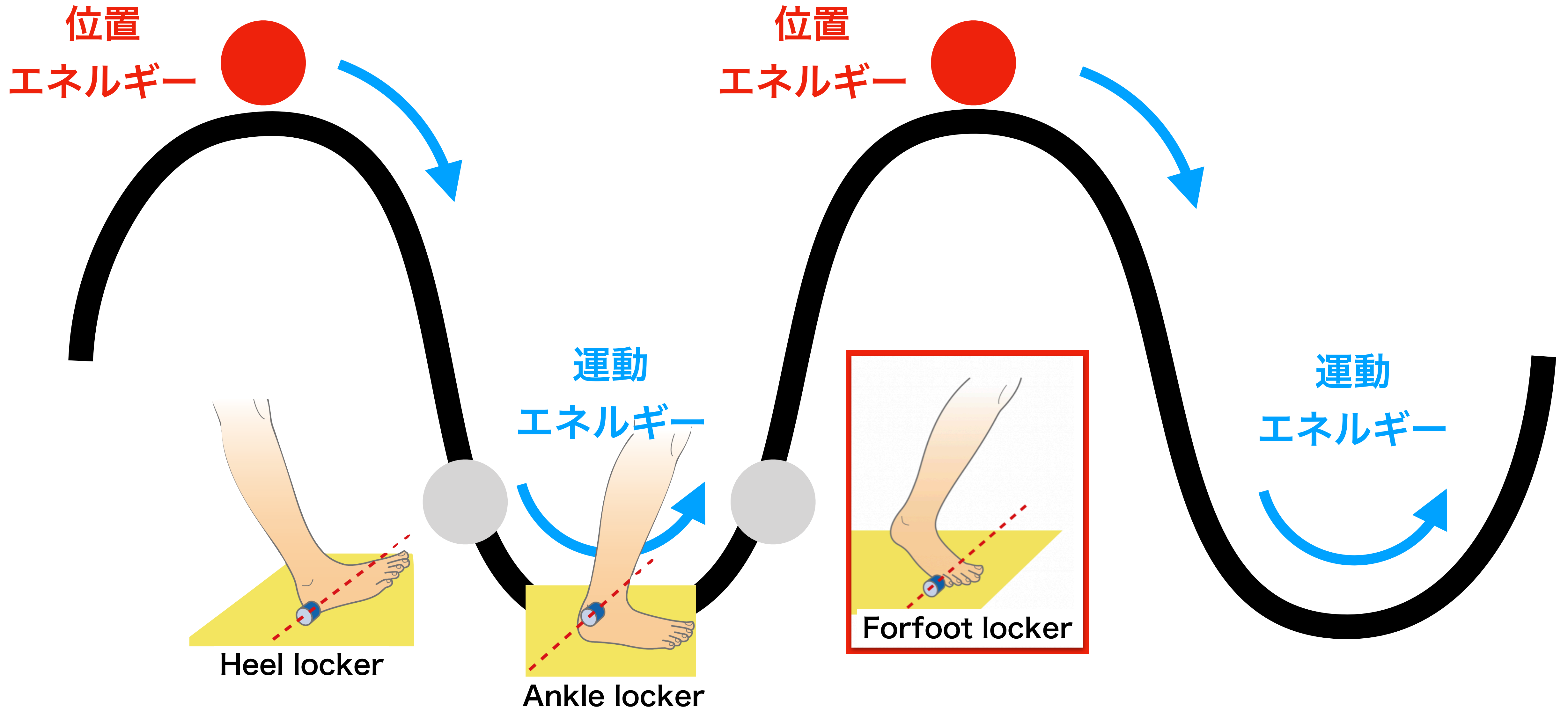
筋緊張の問題

バランス

随意運動の問題



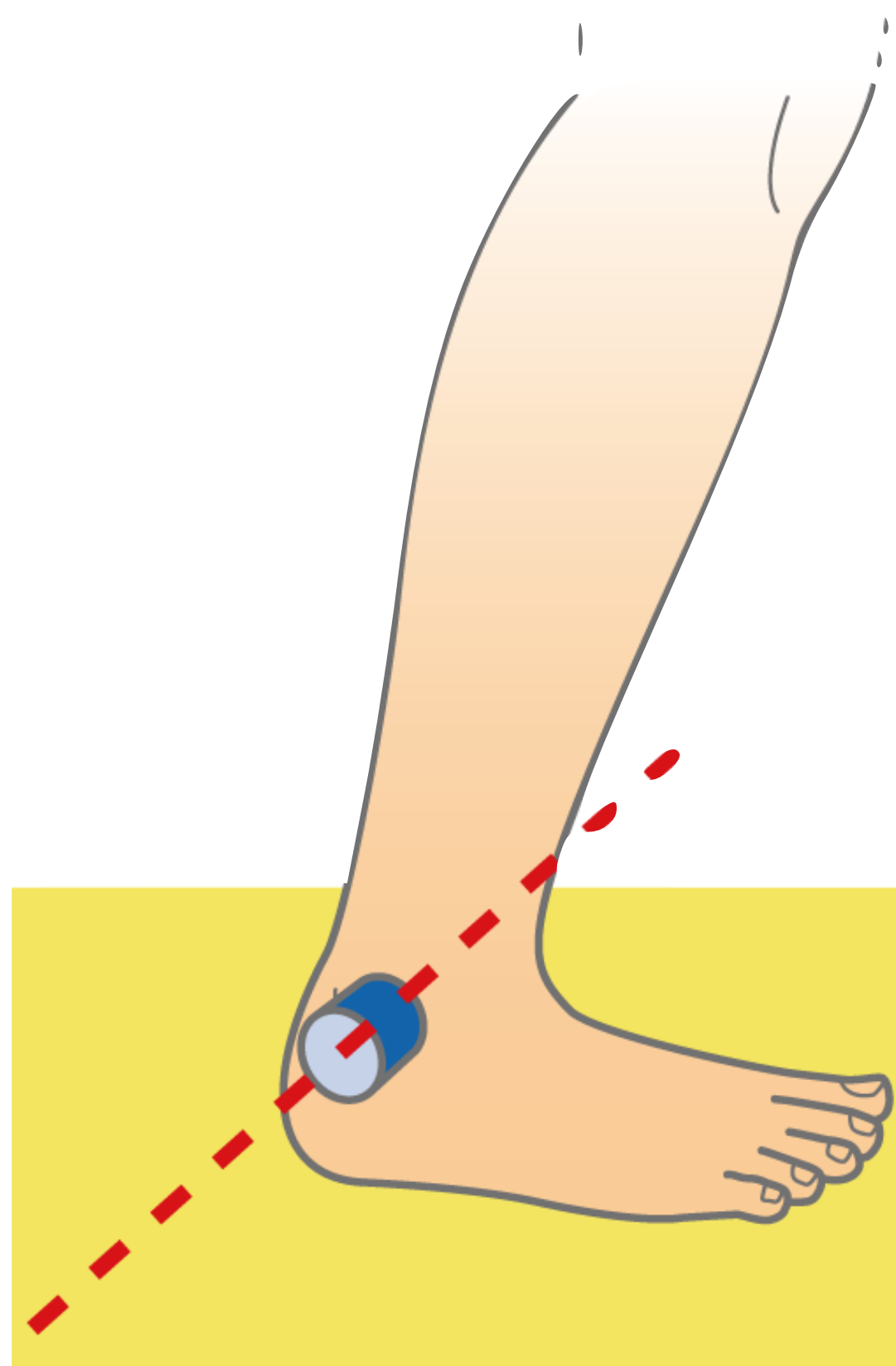
ロッカーフアংশクシヨンはどこ？



アンクルロッカーを作るための

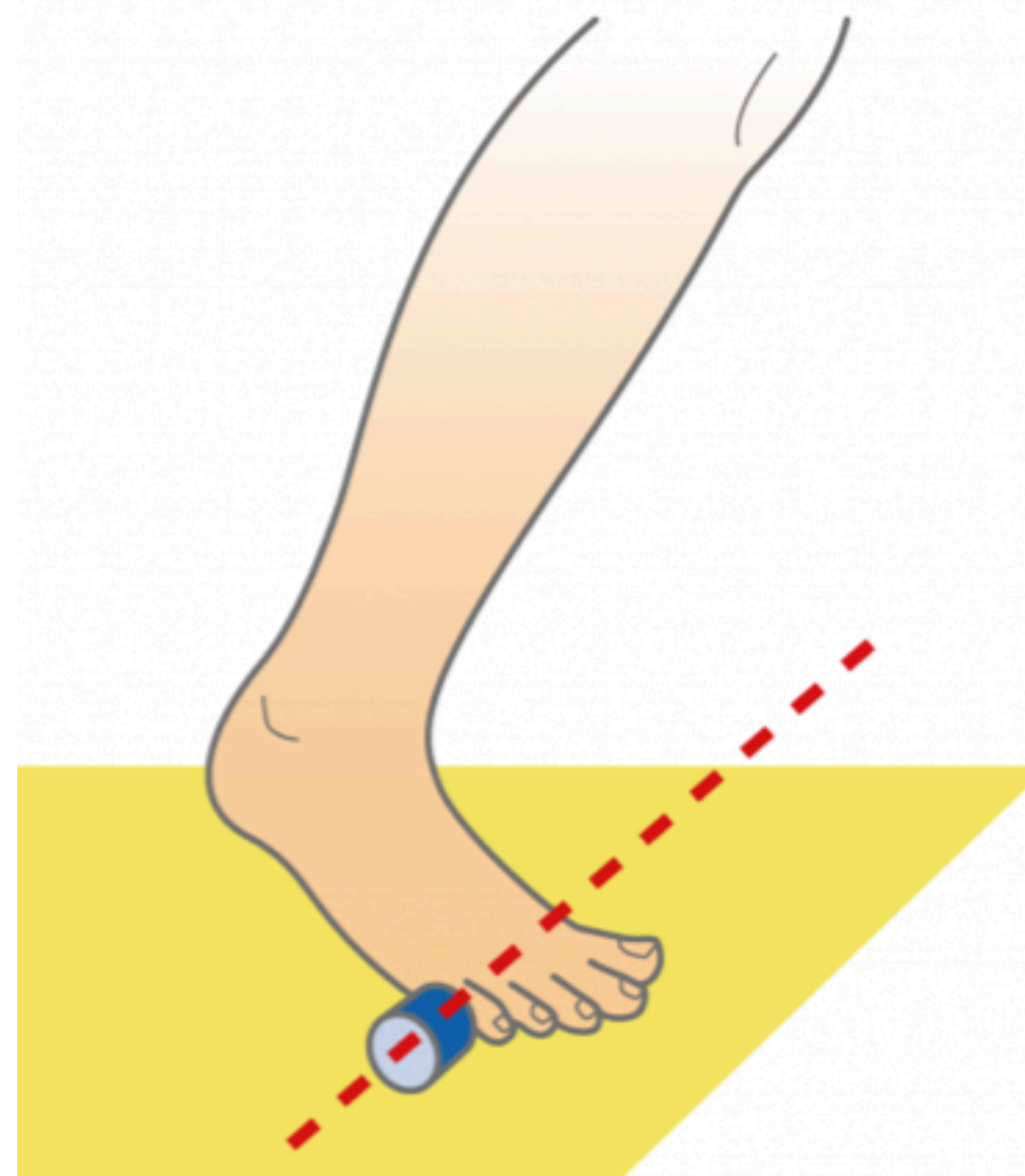
フォアフットロッカー

アンクルロッカーは、足関節を中心として重心が前方に回転していく時期。

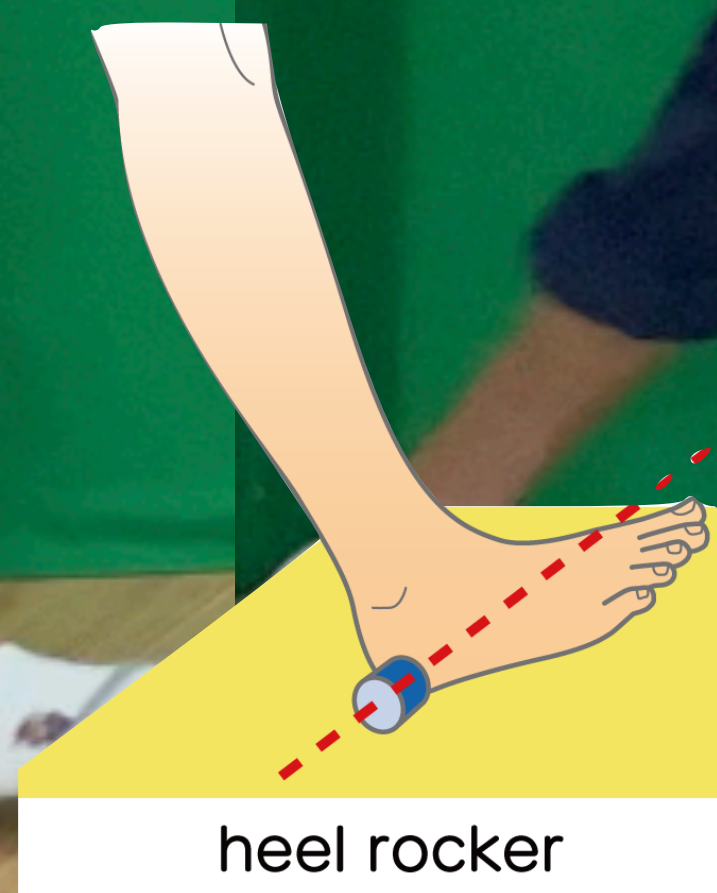
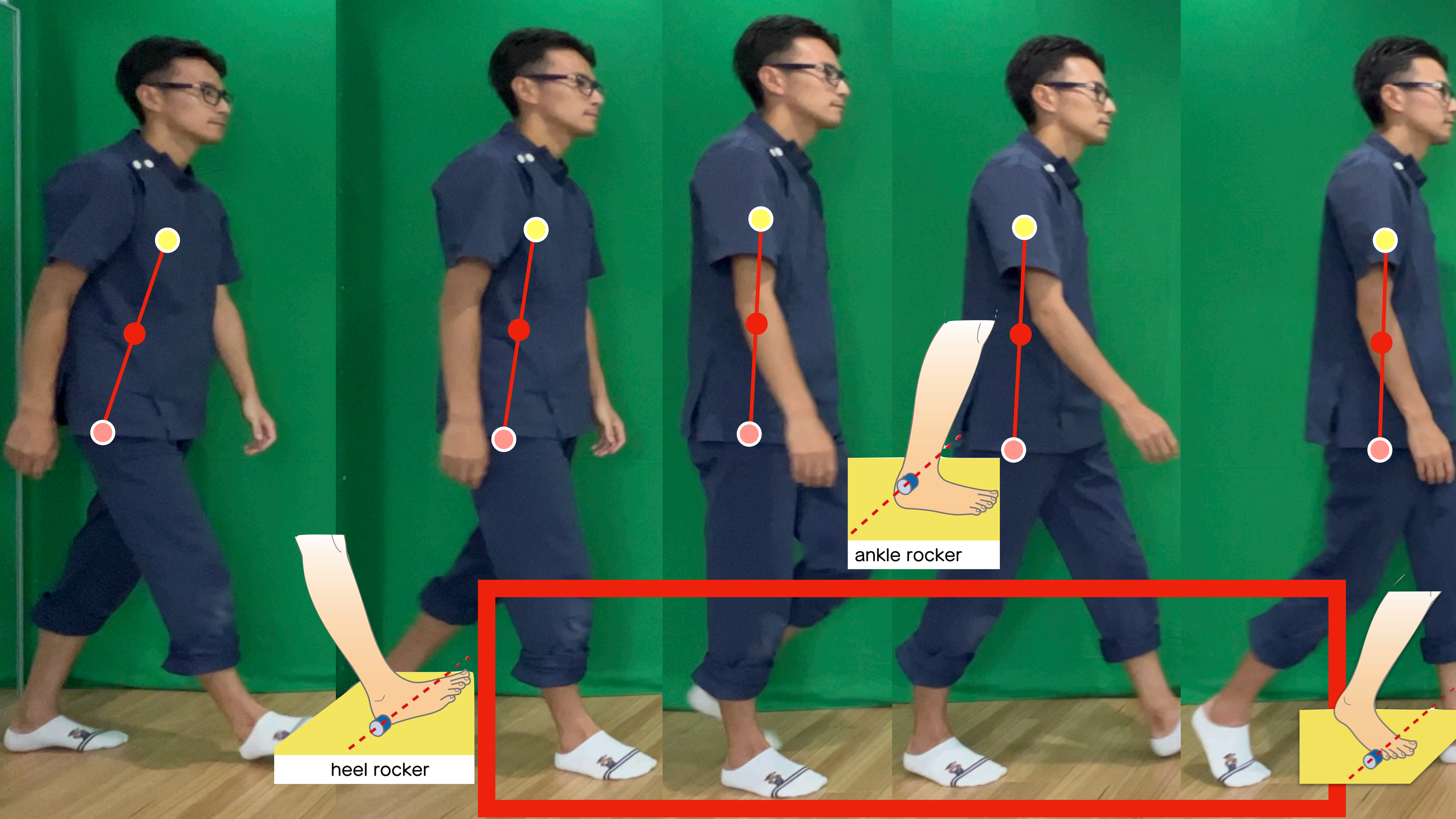


ankle rocker

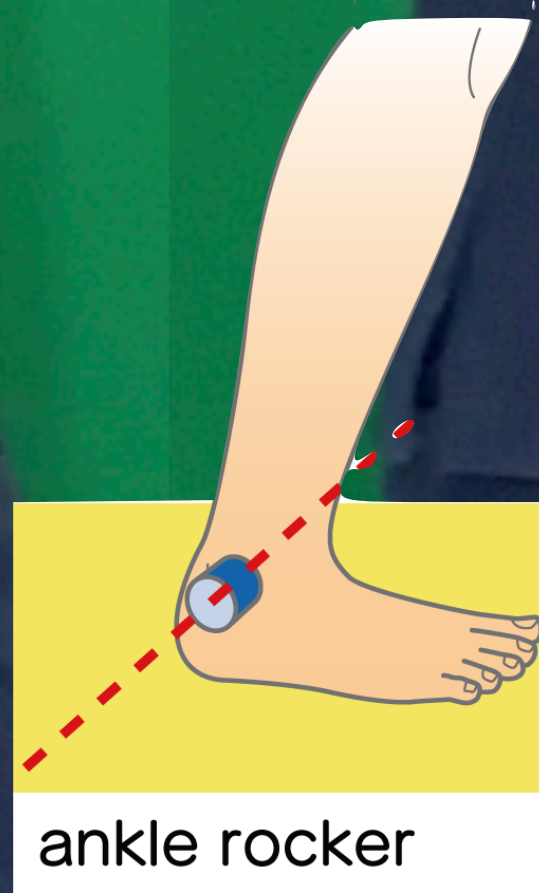
立脚後期になると、身体の回転軸は足関節から中足指節間関節へと移動する時期



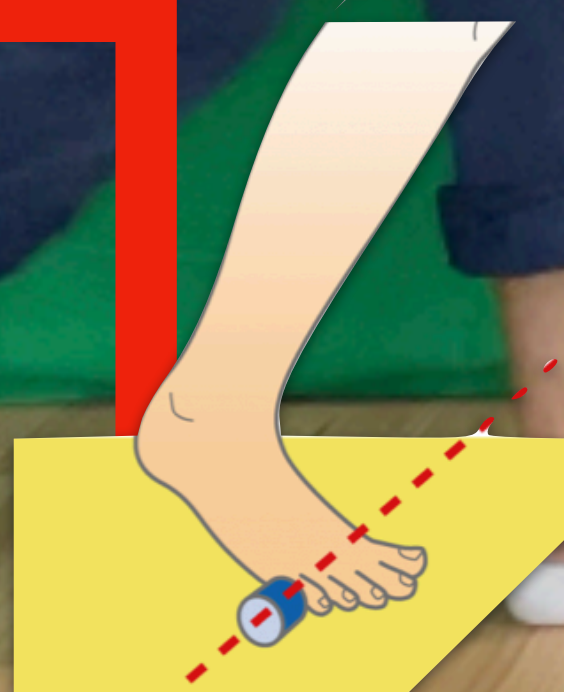
forefoot rocker



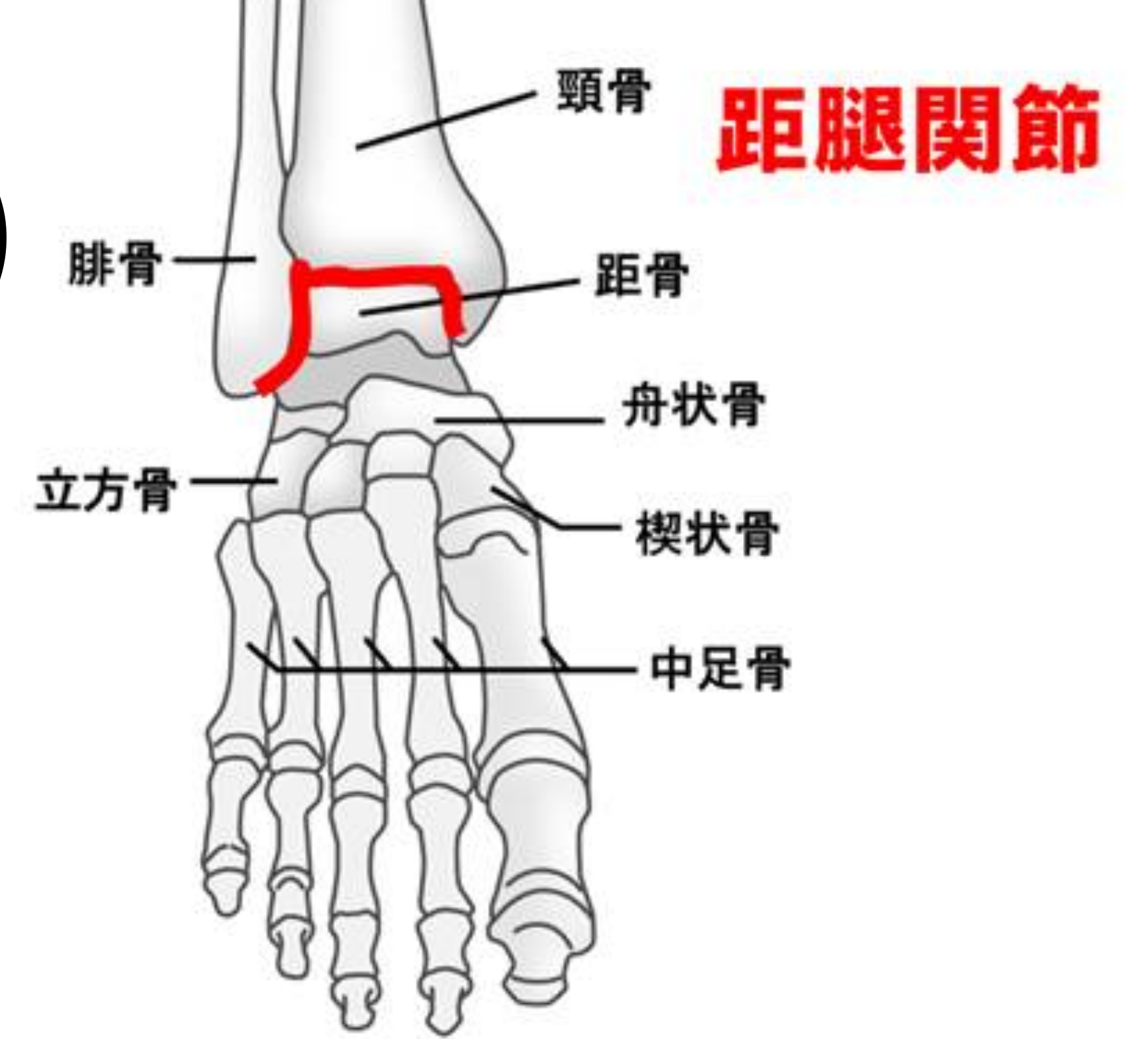
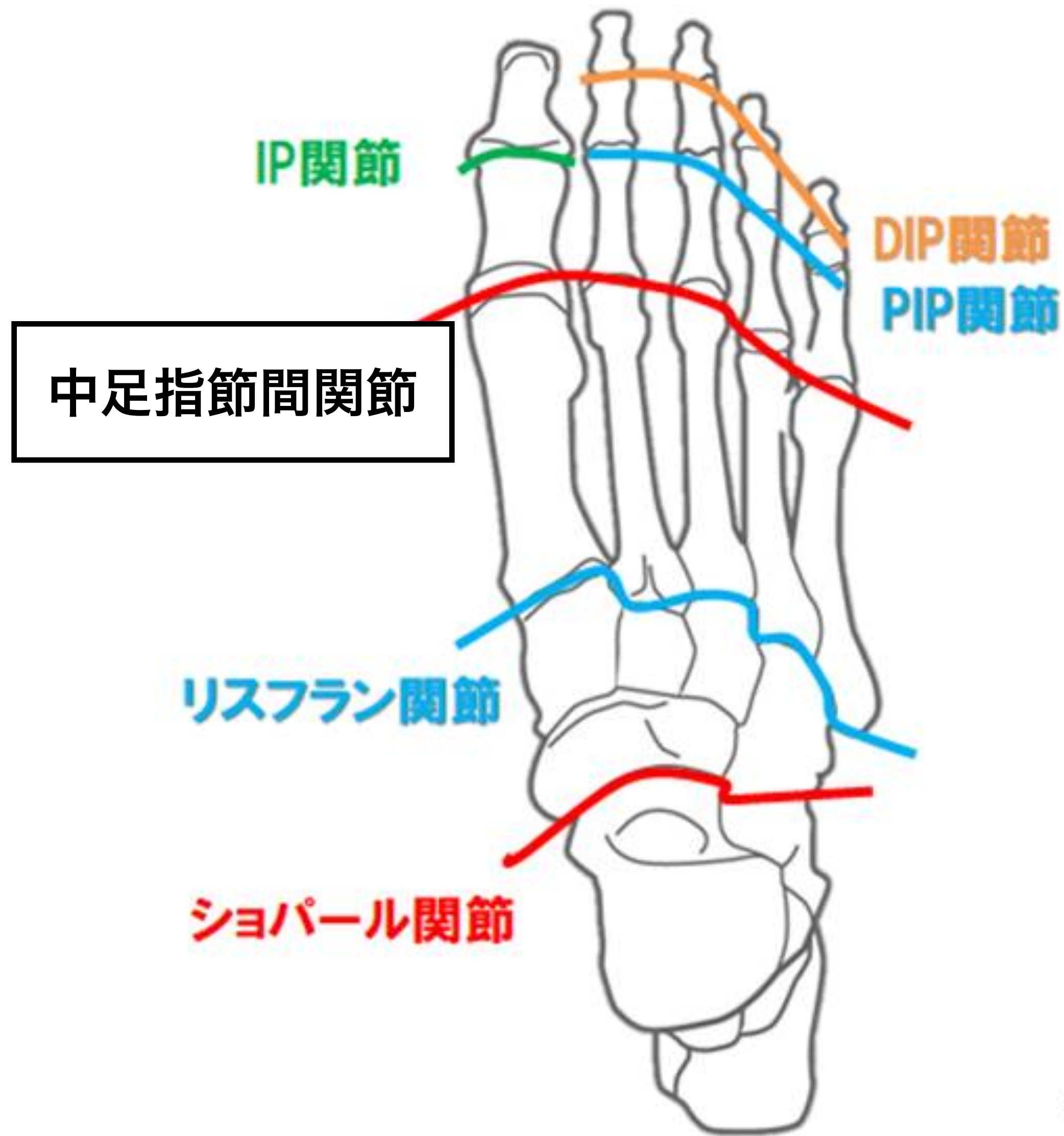
heel rocker



ankle rocker



中足指節間関節 (MPJt)



アプローチセミナー（1月～6月）

▶ 1時間でわかる脳卒中アプローチ

アプローチとは

～評価とアプローチの考え方～

1. リハビリとモーターコントロールとは
2. 評価とは？
3. アプローチとは？
4. 臨床場面での仮説検証作業

日時▶▶▶ 2023年1月20日（金） 20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



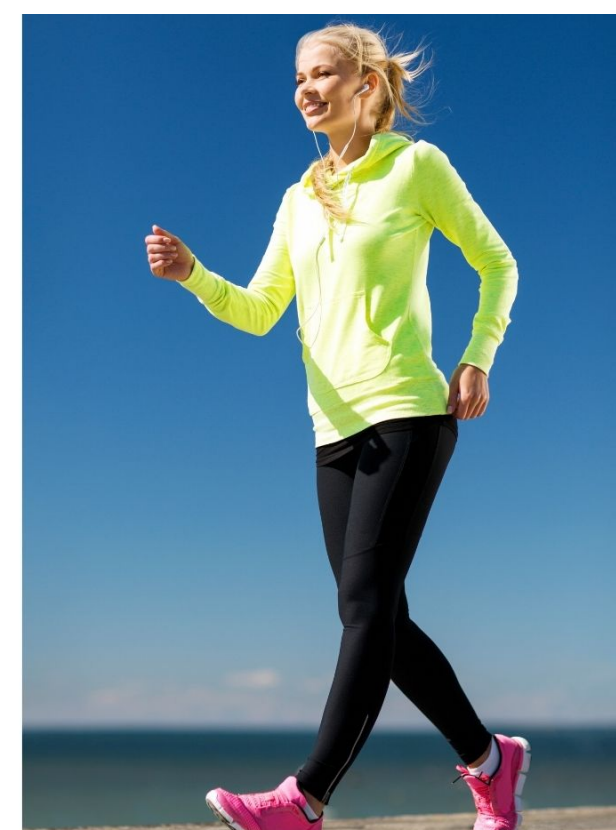
▶ 1時間でわかる脳卒中アプローチ

最短の移動手段 歩行とは

1. ADL獲得に必要な歩行とは
2. 歩行周期と役割
3. 歩行の評価ポイント
4. 臨床場面での仮説検証作業

日時▶▶▶ 2023年2月17日（金） 20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



▶ 1時間でわかる脳卒中アプローチ

重心移動と歩行速度

～重心を上げるために必要なこと～

1. 左右の重心移動の利点と欠点
2. 上下運動の重心移動の利点と欠点
3. 重心を上げるための実験（足関節底屈の必要性）
4. 臨床場面での仮説検証作業

日時▶▶▶ 2023年3月17日（金） 20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



▶ 1時間でわかる脳卒中アプローチ

立脚期に必要な 股関節の動きとは？

～股関節は外転？内転？～

1. 立脚相における骨盤と股関節の動き
2. 片脚立位の股関節外転支持と内転支持の違い
3. 立脚期のための股関節アプローチ
4. 臨床場面での仮説検証作業

日時▶▶▶ 2023年4月21日（金） 20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



▶ 1時間でわかる脳卒中アプローチ

荷重に必要な 足部の働き

～母趾に荷重できない理由と原因～

1. 足部の構造
2. アーチの必要性実験
3. 荷重のための足部アプローチ
4. 臨床場面での仮説検証作業

日時▶▶▶ 2023年5月19日（金） 20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗



▶ 1時間でわかる脳卒中アプローチ

立脚期のキッキングとは

～各関節の分離と協調～

1. 立脚期の役割とは
2. 立脚期分析（各関節の動き）
3. 立脚期を目的としたキッキング練習
4. 臨床場面での仮説検証作業

日時▶▶▶ 2023年6月16日（金） 20：00～

講師：脳外臨床研究会 作業療法士 山本秀一朗

